



工事が進む災害公営住宅

産業厚生

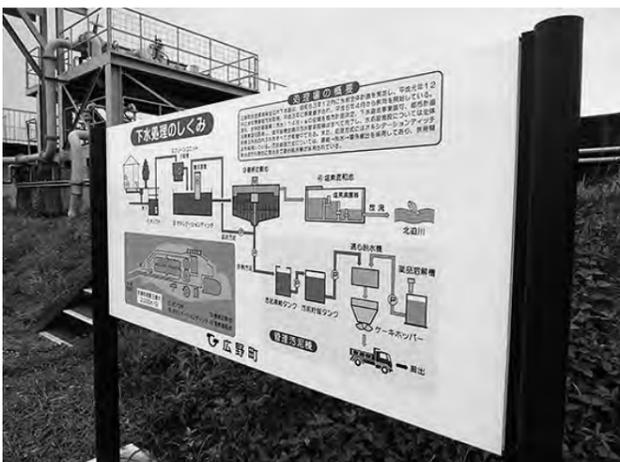
混

乱のないよう、入居基準を明確に
災害公営住宅の建設

来年9月には、完成となるが、完成時期が明確になることで、家賃、入居の可否などの入居基準を明確にして、混乱のないよう取りはからうべきとの意見が出されました。

町長からは、町負担の軽減、家賃徴収の減免などを国に働きかけていること、また、災害公営住宅増設要望をしていることの説明がありました。

委員会は本事業が多少の解決すべき問題をかかえつつも工事計画ののっとり完成に向けて最善を尽くすことを提言しました。



広野町下水処理場

産業厚生

指

摘事項を精査して推進へ
広野町特定環境保公共下水事業の区域拡大

公共下水道事業の区域拡大について、処理対象面積拡大すること、処理場の能力に問題が生じないのか、処理場は現在何バッチで運転しているのかなど多くの指摘がありました。

委員会は、駅東側開発事業が町復興のパイロット事業であるとの認識のもと区域拡大施策を図ることを期待するも指摘事項を精査し推進するよう提言をしました。

特別委員会

定

期的な説明会の実施を求める
減容化施設に係る進捗状況

災害廃棄物などの減容化処理施設について、環境省から、①これまでの主な経緯 ②今後の施設建設スケジュール ③減容化処理施設の概要の説明を受けました。

各委員から、煙から放射性物質が排出するのではないか、残渣(ごんさ)および水の取り扱いはどうなるのか、などの質疑が出されました。

環境省からは、煙突の出口にバグフィルターを取り付け、ほとんど排出されない施設である。

また、水は、施設の冷却のために使用し、最終的には、水蒸気として排出されるとの説明を受けました。

委員会としては、定期的な説明会の実施、建設スケジュールの前倒しと施設解体撤去後は、汚染された廃棄物はそこに残らないように万全を期するよう求めました。

災害時には、1階の給食センターは炊き出しの拠点となり、2階の地域交流センターは、多目的ホールが災害対策本部に変わり防災の拠点施設となります。

あわじメガソーラーは、パネル5022枚を庁舎横に設置したものです。

発電した電気は、役所や防災あんしんセンター、浄化センターに送電され、3施設の約半分の電力(年間約110万kw)をまかなっているとのこと。

防災意識の向上については、デジタルテレビを利用したシステムの構築や、64カ所の避難所の高さ表示、235の自治会へ自主防災組織づくりを呼びかけているとのことでした。

まとめとして両施設を今回研修して強く感じたことは、備えあれば憂いなしの感を新たにしたことです。

<長崎県島原市を研修>

雲仙普賢岳噴火災害からの復興・被災救済事業 ~未来を見据えたまちづくりと課題~

総務文教 委員会



未来を見据えたまちづくりを学ぶ委員

平成9年3月に島原地域再生行動計画(愛称「がまだす計画」)が策定されました。へがまだすとは、島原地方の方言でへがんぼるという意味。

がまだす計画事業には、防災工事、農地の災害復旧、交通体系の整備などの基盤的業務と農林水産業や商工、観光業の振興、各種公共施設の整備などが、がまだす計画策定前からの継続事業、新規事業合わせて335の事業で進められてきました。

復旧・復興へ長期に渡って取り組むことになった島原市、住民が粘り強くがんばるという意思のもとに計画策定をしました。

その中に見えたことは、インフラ整備と同時に産業の復興がなければ、展望が開けないということです。

私たちが住民の気持ちに沿いながら粘り強く復興に向けて取り組んでいくことを再確認できた研修でした。

<兵庫県淡路市を研修>

阪神淡路大震災を経験した淡路市の取り組みを学ぶ ~再生可能エネルギーを利用した防災体制~

産業厚生 委員会



再生可能エネルギーについて説明を受ける委員

淡路市役所付近に市防災あんしんセンターが平成22年に完成しました。

1階は給食センター、2階は、地域交流センターになっており、小中学校の防災教育、災害ボランティア研修、地域住民の料理教室などを行う多目的ホールや研修室、市民防災室となっています。

災害時には、1階の給食センターは炊き出しの拠点となり、2階の地域交流センターは、多目的ホールが災害対策本部に変わり防災の拠点施設となります。

あわじメガソーラーは、パネル5022枚を庁舎横に設置したものです。

発電した電気は、役所や防災あんしんセンター、浄化センターに送電され、3施設の約半分の電力(年間約110万kw)をまかなっているとのこと。

防災意識の向上については、デジタルテレビを利用したシステムの構築や、64カ所の避難所の高さ表示、235の自治会へ自主防災組織づくりを呼びかけているとのことでした。

まとめとして両施設を今回研修して強く感じたことは、備えあれば憂いなしの感を新たにしたことです。